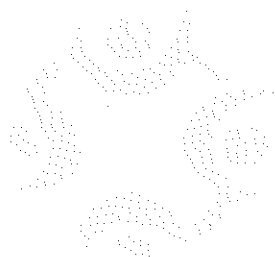


社会福祉法人かがやけ福祉会

2022年度事業報告 (令和4年度)

+

かがやけ福祉会 法人本部	1 頁
かがやけ共同作業所	10 頁
かがやけ第2共同作業所	13 頁
グループホーム	16 頁
相談支援センターかがやけ	18 頁



令和5年6月21日
かがやけ福祉会
評議員会

2022年度 法人本部事業報告

I 理事会の開催 年4回開催した。

第1回理事会(通算129回) 2022年5月26日
第1号議案 2021年度 事業報告
第2号議案 2021年度 決算報告
第3号議案 監事監査報告
第4号議案 2022年度 第1回評議員会の開催

第2回理事会(通算130回) 2022年10月26日
第1号議案 育児休業等に関する規則の改正
第2号議案 介護休業等に関する規則の改定
第3号議案 2022年度 第2回評議員会の開催
(新型コロナウイルス感染抑制対策に伴う理事会決議省略)

第3回理事会(通算131回) 2022年12月22日
第1号議案 かがやけ福社会5か年計画

第4回理事会(通算132回) 2023年3月22日
第1号議案 2022年度 一次補正予算
第2号議案 かがやけ福社会経理規定の改正
第3号議案 2023年度 事業計画
第4号議案 2023年度 職員体制及び団体への派遣
第5号議案 2023年度 処遇改善手当等
第6号議案 2023年度 当初予算
第7号議案 役員等賠償責任保険の契約

II 評議員会の開催 年2回開催した。

第1回評議員会(通算79回) 2022年6月24日
第1号議案 2021年度 事業報告
第2号議案 2021年度 決算報告

第2回評議員会（通算80回） 2022年11月15日

報告事項

- (1) 理事長の職務執行状況報告
- (2) 常務理事の職務執行状況報告
- (3) その他

Ⅲ 運営協議会の開催

年2回開催した。

第1回運営協議会 2022年6月9日

- ・2021年度事業報告・決算について
 - ・2022年度事業計画・予算について
- 法人報告及び各委員からの報告をおこなった。

第2回運営協議会 2022年12月14日

- ・理事長職務報告執行
 - ・常務理事職務執行報告
- 法人報告及び各委員からの報告をおこなった。

Ⅳ 個別支援計画未作成減算対応委員会 2023年3月15日

- ・経過報告
- ・未作成減算の原因
- ・改善方法
- ・懲戒委員会のたちあげについて

Ⅵ 懲戒委員会 2023年3月15日

- ・処分の内容について

Ⅶ 借入金の償還

かがやけ第2共同作業所建設借入金分として（2004年 5,250万円借入）

（単位：円）

	元金	利息	合計	償還期日
第34回次	2,620,000	62,880	2,682,880	2022.5.10
第35回次		41,920	94,920	2022.11.10
合計	2,620,000	104,800	2,724,800	

残高 5, 240, 000円
最終償還日 2024年5月10日

VIII 事業の展開

- 1 第二種社会福祉事業障害福祉サービス事業の経営
 - ・ 生活介護 かがやけ共同作業所
 - ・ 就労継続支援 B 型 かがやけ第 2 共同作業所
 - ・ 相談支援事業 相談支援センターかがやけ
 - ・ 共同生活援助（介護サービス包括型事業所） かがやけ寮
(ユニット：ブリエ（旧かがやけ寮）、リベルテ、ラヴァンス)
 - ・ 共同生活援助（介護サービス包括型事業所） エタンセール
(ユニット：エタンセール、アルクアンシェル、フューチャー)
- 2 公益事業
 - ・ 葛飾区より在宅心身障害者緊急一時保護事業の受託

IX 今年度の事業報告

1. 経営・組織強化のために

(1) 理念の実現

新型コロナウイルスの影響により、2年間全体会を開催してこなかったが、2022年度は開催することができ、理念の4つの取り組みについてグループワークにより、理念の再確認と職員一人ひとりが自分たちの支援を振り返り、更に目指していかなければならない支援の在り方について共有することができた。

(2) 経営組織の確立と強化

新型コロナウイルス感染症の拡大で、利用者、保護者、職員が罹患するなど、昨年に引き続き、その影響は運営に大きな影響を及ぼした。

感染者の発生や感染の疑いがある場合、一部閉鎖またはグループホーム内待機を行ない、PCR検査を速やかに行う等、感染症からなかまの健康、命を守るために、感染症対策を強化徹底してきた。

更に感染対策を十分に行いながらも、職員が様々な工夫をし、作業所の中で、グループホームの中で、楽しい企画を計画し、生活を出来る限りゆたかにしていく取り組みを行なった。

法人事務局会、管理職会議を定例開催し、法人の課題や事業所の課題について論議し、法人運営の進捗状況の把握、進行、充実に努めてきた。

しかし、かがやけ第2共同作業所にて、個別支援計画の見直しの作成の遅れがあり、訓練等給付費の減算が生じ、法人組織としての管理が大きく問われる事案が発生した。今後、管理職が、法人組織全体を視野に入れ事業所全体を統括し、課題解決に動ける体制を整備するなど、組織機構の改善、体制強化をしていく。

(3) 5か年計画の推進（2022年～2027年）

なかま、保護者、職員を対象に法人運営や支援内容の要望等のアンケートを取り、これを土台に、2022年からの5か年計画を作成してきた。今後この5か年計画に則り、計画を実施していく。

(4) 財政計画

5か年計画、財政計画について、各事業所の大規模修繕、新規施設整備について、数字を明らかにしてきたが、今後の実施についての評価検討、分析を行う時間を設ける事ができず、法人として論議が充分でなかった。2022年度については、コロナ感染拡大の影響での利用者出席率の低下等の収入減等により、法人財政は厳しい状況となった。

今年度、将来のために、施設整備費等積立金は、586万円積み立てることができた。

2022年度決算では福祉充実残額が生じなかった。

(5) 危機管理体制・災害対策・感染症対策

ア 防災対策

かがやけ福社会防災マニュアルに基づき、全職員が学習し、訓練等も実施していく予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施をみあわせた。事業継続計画づくりも着手できなかった。

イ 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症が拡大し、利用者と職員の命を守る為、様々な対策を講じてきた。

2022年度、東京都において、7月8月感染者が1万人、3万人と拡大し、各事業所も緊張が走る中、全事業所に対する感染症予防対策の徹底、感染の広がりを抑えるための防護対策や、全職員対象にPCR検査の実施（グループホーム週1回、通所週1回）、感染リスクが高い利用者や職員への自宅待機の指示を行ってきた。しか

し、各事業所とも罹患者がでて、グループホームがクラスターになり、利用者、職員ともども不安な日々を送った。幸いにも。全員軽症であり、日常生活に復帰ができています。

① 新型コロナ発生状況

	7月			8月			9月		
	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計
かがやけ共同作業所	3	1	4	8	3	11			0
かがやけ第2共同作業所	1	1	2	2	1	3	1	1	2
グループホーム	4	6	10	2	2	4	1	1	2
合計	8	8	16	12	6	18	2	2	4

	10月			11月			12月			1月		
	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計
かがやけ共同作業所	2		2	7	4	11		4	4	1	1	2
かがやけ第2共同作業所			0	1	1	2	1	4	5	2	1	3
グループホーム	2	2	4	2	1	3	1	1	2		1	1
合計	4	2	6	10	6	16	2	9	11	3	3	6

	年間合計		
	利用者	職員	合計
かがやけ共同作業所	21	13	34
かがやけ第2共同作業所	8	9	17
グループホーム	12	14	26
合計	41	36	77

②補助金の活用

- ・葛飾区新型コロナウイルス感染症にかかるPCR検査経費補助金
- ・東京都新型コロナウイルスに係る障害者福祉サービス事業所等に対するサービス継続支援事業補助金
- ・葛飾区障害福祉サービス事業者への燃料費高騰対策及び物価高騰対策補助金

③行政への要望

9月に利用者、保護者、職員を対象に新型コロナ感染症緊急アンケートを取り、葛飾区へ要望書を提出した。

(6) 虐待防止対策の推進と強化

虐待防止委員会を年2回（6月・3月）に開催した。

事業所ごとに虐待防止委員による研修会を行ない、支援の質の向上をめざした。研修会に参加できない職員に対し、チェックリストの活用やサポーターズカレッジの動画による研修をおこなってきた。グループホーム職員に対し、集中講義を設け、できる限り研修会に参加できるよう工夫した。日頃の支援を振り返る良い機会になった。

また、身体拘束の適正化を図るための対策を検討する委員会を事業所ごとに開催し、支援の質の向上をめざした。

(7) 内部監査の充実

法人内での内部監査（5月、11月）を実施するとともに、監事による中間監査（11月）を実施し、業務内容を見直す機会を設けた。しかし、監査において個別支援計画、モニタリング作成時のチェックが適格におこなえず、法令遵守の徹底が不十分であった。

(8) 職員の働きやすい職場づくり

送迎業務のあるかがやけ共同作業所において、事故防止と運転経験の浅い職員の新人教育の一環として、自動車学校の「安全運転講習」に職員を派遣した。

メンタルヘルス研修を管理職研修として行い、不安や悩みを抱える職員に対し、気軽に相談できるように体制を整えてきた。

引き続き、職員が安心して働き続ける職場めざし、職場の労働環境改善のための課題整理、課題解決のための方策を話し合う場を設ける。

労働条件改善について次のことを行ってきた。

- ・引き続き、処遇改善加算1型、特定処遇改善加算1型の取得による賃金改善
- ・福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金による賃金改善及びベースアップによる賃金改善
- ・引き続き、若手職員の給与改善（基本給21万円未満の職員を対象に特別昇給）
- ・新型コロナウイルス感染症対応手当規程により、感染の疑いのある者への支援、陽性者の支援、濃厚接触者への支援をした職員に対し手当を支給した。

延べ102名 1,329千円

(9) 運営協議会、合同保護者会の充実

運営協議会は、第1回については、5月11日、第2回は、12月14日に開催し、法人報告及び各委員からの報告をおこなった。

合同保護者会は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、開催しなかった。

(10) かがやけ福社会後援会との連携

担当理事をきめ、後援会事務局会議に参加することで、連携を図ってきた。

2. 事業と実践の展開

(1) グループホームのユニット増 新設計画

地域の地主さんからのグループホーム建設協力についての申し入れがあり、検討したが、実施にはいたらなかった。

(2) 修繕計画

かがやけ共同作業所の外壁工事の検討は出来なかった。

3. 人財の育成

(1) 人財確保・採用（常用職員）

採用

民間求人サイトによる職員募集に力を入れてきた。

新卒

かがやけ共同作業所 支援員1名

経験者採用

かがやけ共同作業所 事務1名

かがやけ第2共同作業所 支援員1名

退職

年度内に5名が退職した。

かがやけ共同作業所 事務1名

かがやけ第2共同作業所 支援員1名

グループホーム 支援員3名

(2) 人財育成

かがやけ福祉会の歴史、理念の継承のため、管理者の育成や次世代の人財育成に力を入れ、目的意識的な人財育成を進めてきた。

ア 職員ハンドブックの作成に取り組みます。

作成の準備をしてきたが、完成にはいたらなかった。引きつづき、作成に取り組んでいく。

イ 管理職職員の研修の確立をしていきます。

管理職として求められる管理業務能力や実践推進の力量をつけるため、テーマを決め、研修をおこなってきた。

第1回 9月から10月

「ハラスメントの理解と防止に向けて」

サポーターズカレッジ視聴とレポート提出

第2回 2月から3月

「新人の育成と定着を考える」

サポーターズカレッジ視聴とレポート提出

ウ 資格取得支援規定を活用し、資格取得を促します。

資格取得支援規程活用職員3名

エ 研修システムに基づき、内容の充実を図り、職員の資質向上に努めます。

① 新人研修

・チューターを配置し、新人育成をはかった。

なお、年度中採用の職員については、翌年度実施予定である。

・法人研修担当者会主催の新規職員研修を実施した。

・サポーターズカレッジを活用した新人研修の開催を実施した

・東京都社会福祉協議会主催の階層別研修を受講した。

・職場交換研修の実施は、取り組めなかった

② 実践充実のための研修

・外部講師による法人全体研修の実施

2022年4月22日 オンライン研修

「権利条約について」

園部英夫講師

2022年11月18日

「発達保障についての基礎を知る」

小淵隆司講師

・実践報告会の実施

2023年2月16日 オンライン研修

職員のレポート発表による実践報告

「コロナ禍における取組」

～どんな時でも「なかま」を主人公とした取り組み～

かがやけ第2共同作業所 報告

就労支援報告 かがやけ第2共同作業所

③ 外部研修への派遣（各事業所報告参照）

- ・管理者研修への研修派遣（きょうされん）
- ・階層別研修への研修派遣
- ・専門研修への研修派遣

4. 地域への取り組み

(1) 広報活動の充実

ア ホームページの充実

ホームページの更新を適切な時期に実施した。

イ かがやけニュースの紙面の充実

かがやけニュースを、5月・7月・11月・1月・3月の6回発行した。

(2) 地域における公益的な取り組み

きょうされん映画「夜明け前」と「星に語りて」の上映会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防のため、中止した。

毎年、かがやけ第2共同作業所の屋上を地域に開放し、葛飾区花火大会の観賞会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、花火大会が中止となり、開催できなかった。

(3) 地域との諸団体との連携

法人主催の地域に向けた学習会の開催や防災についての情報交換や連携などは、取り組めなかった。

2022年度 かがやけ共同作業所事業報告

今年度は、年度当初利用者数は53名、退所者は他事業所へ異動した利用者が1名、病気で亡くなられた方が1名、入所者は他県からの転居者が1名おり、年度末利用者数は52名、年間平均利用率は82%（昨年度84%）であった。

新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度も毎月の外食、一泊旅行、秋のなかままつりは中止とし、所内でレクリエーション等を行う所内活動を月1回実施、旅行の代替えと季節感を感じられる行事として、各班をリモートでつなぎ、9月に「でーじたのしい夏パーティー」（テーマ夏の沖縄）、12月に「そうだ京都に行こう、おいでやす秋パーティー」（テーマ秋の京都）を行い、所内をテーマに沿って装飾してエイサーを踊ったり、ゲームやクイズを行い、御当地弁当や模擬店、キッチンカーで食事を楽しんでいただいた。

生産活動（作業）では、公共機関等への定期出店やイベント中止による販売収益の減収を補うため、今年度もクッキーとさをり織り製品の詰め合わせ販売を10月に行った。またクッキーについては地域住民の方から定期的に注文をいただき売り上げを確保することができた。その他の作業についてもおおむね目標に近い収益があり、年間収入は昨年度を上回り、平均工賃も昨年度以上の月額5,378円を支給できた。

健康管理では、昨年度に引き続き感染症予防対策を講じてきたが、新型コロナウイルス感染症に感染した方が、利用者21名、職員13名と多数いた、全員軽症で入院される方はいなかった。胃ろうの利用者に対して生活支援員による医療的ケアが実施できるように、たん吸引等の研修を今年度も受講し、喀痰吸引事業所登録を7月に行い体制を整えたが、対象の利用者がお亡くなりになり、生活支援による医療的ケアは実施できなかった。理学療法士の指示のもと運動プログラムの作成や車椅子の製作、補装具の調整等を支援した。生活面の支援では、通院の同行や他サービス利用の支援を行い、特に家族が亡くなり自宅での生活が困難になった2名の利用者については、グループホーム見学や兄弟との連絡調整等の支援を行い、1名はグループホーム入居、1名は体験入所につなげることができた。

事故については、利用者の服薬忘れが1件、転倒事故が3件、車両事故が5件発生し、その都度職員会議で報告し改善策を検討実施した。車両事故については動画による安全運転講習を実施するとともに、飲酒や置き去りによる事故防止のため、アルコールチェッカーによる検査と送迎表による乗降者確認を徹底した。虐待防止研修を1回実施した。身体拘束適正化委員会を2回実施し内容を職員に周知した。所内の照明をLEDに交換した。実習生受入れは、専門学校2名、入所希望者1名を受入れた。

I 利用者状況 (2023年3月31日現在)

1. 事業種別 定員

- ・事業種別 生活介護事業
- ・定員 55名

2. 各月利用者数

(単位:人・%)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
前月末	53	53	53	53	53	53
当月初	53	53	53	53	53	53
当月末	53	53	53	53	53	52
入所者	0	0	0	0	0	0
退所者	0	0	0	0	0	0
利用率(%)	84	86	88	76	72	84
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前月末	53	53	52	51	52	52
当月初	53	53	52	51	52	52
当月末	53	52	51	52	52	52
入所者	0	0	0	1	0	0
退所者	0	1	1	0	0	0
利用率(%)	80	70	81	81	88	89

- ・入所者 1月10日、他県から転居により1名入所
- ・退所者 11月31日、他事業所へ異動により1名退所
12月5日、入院中に死亡のため1名退所
- ・年間平均利用率 82%

3. 男女別 男性30名 女性22名

4. 居住地別 葛飾区 50名 白井市 1名 松戸市 1名

5. 年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
男	0	6	6	7	7	3	1	44歳
女	0	4	2	4	10	1	1	47歳
計	0	10	8	11	17	4	2	45歳
%	0	19	15	21	33	8	4	

6. 障害支援区分別

区分	人数
6	21
5	14
4	12
3	4
2	1
1	0
未判定	0
合計	52

※平均区分5

7. 通所方法	送迎利用者	40名 (全7コース)
	家族送迎者	2名
	自主通所者	10名

II 職員状況

1. 職員配置

1) 管理者	1名 (常勤1名)
2) サービス管理責任者	1名 (常勤1名)
3) 生活支援員	18名 (常勤14名、非常勤4名)
4) 看護職員	1名 (非常勤1名)
5) 栄養士	1名 (常勤1名)
6) 調理員	4名 (非常勤4名)
7) 事務員	1名 (常勤1名)
8) 運転職員	1名 (非常勤1名)

※兼務表記省略 2021年3月31日現在

2. 職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
常勤	18	18	18	18	18	18
非常勤	10	10	10	10	10	10
計	28	28	28	28	28	28
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
常勤	19	19	19	19	19	18
非常勤	10	10	10	10	10	10
計	29	29	29	29	29	28

各月当初人数

今年度は新入所者無く53名の利用者が在籍。平均年齢39.8歳、年間平均利用率

85.5%、退所者は0名。コロナ陽性者発生により7月に1日、9月に1日休所した。

利用者支援では、日々のコロナ感染防止対策を取った上で作業、給食、イベント、クラブ活動などに取り組んだ。感染者は利用者6名、職員9名で全員軽症であった。喫茶は1年間営業時間の短縮を維持、外部での定期販売、企画商品を提案するなど各作業で年間売上目標を上回り、全体として回復傾向に転じた。

調理班では、材料費等高騰で11月に550円から650円に日替わり弁当の値上げを実施。しばらく注文数減少、徐々に戻りつつある。電話等注文1日20食前後、喫茶店内では1日10~12食。春夏冬の長期休み期間中、区内9か所の学童保育より1日100食以上の注文を受けた。ターゲットを夕食に当てた企画弁当（「梅雨弁当」「七夕天ぷら弁当」「秋の一品弁当」「恵方巻」「ひなまつり（ちらし寿司）」に1年通して取り組む。メニューは利用者が複数の料理雑誌を参考に意見を出し合った。

お菓子班では、月3回の定期的な外部販売や喫茶店内で販売する商品を計画的に製造。材料や包材高騰で商品値上げを実施。離れていくお客様もいる反面、チラシ配布効果もあり新規来店者（親子連れ、若年層）が増えた。お客様、利用者にも分かりやすく月曜日ケーキ類、火曜日どら焼き、水曜日プリンの日、と曜日で製造・販売商品を固定した。

受注班では、感染防止対策として33名を3部屋に分け、学校教材の袋詰め、オルゴール組立、鉛筆の芯入れ箱詰めなどに取り組んだ。引き続き区の共同受注窓口と連携し情報を得た。新規受注としてアマゾンの仕分け発送作業を継続的に取り組んだ。公園清掃では除草作業に追われ、トイレ清掃は施設内での清掃練習など担い手育成を行った。今年度の月平均工賃支給額は20,117円（前年度20,122円）、今年度授産事業活動収入合計額 22,368,888円（前年度21,272,723円）

就労支援では一般就労された方々に連絡。通勤日数の減少した昨年に比べ通常に戻りつつある現状を確認した。区役所実習20名、所内実習17名、自転車リサイクル1名、就労面談1名の参加があった。

その他、クラブ活動では創作クラブ、マラソンクラブの充実、昼休みの階段昇降運動、及び放送委員会によるリクエスト放送を実施。学習会では、5月就労、12月署名、3月健康について取り組む。にいじゅくまつりや一泊旅行は中止、11月に日帰りバスハイク（マザー牧場）を行き久しぶりの全員での観光行事を楽しんだ。7月の館内イベントでは企画や食事内容について利用者の実行委員と共に話し合い運営された。保護者会は11月およそ3年振りの開催、イベントの様子はニュースや動画配信によりご家庭にコロナ禍の作業所の様子を伝えた。給食

では、減食8名、小カット2名対応、栄養士による助言相談、防災訓練は4回実施、防災食を食べるなど防災意識向上に努めた。実習は、支援学校生2名、中学生職場体験2名、介護等体験3名を受入れる。第三者評価受審なし。修繕として非常照明・誘導灯更新、増圧給水ポンプ更新工事などを実施。事故では、利用者の転倒1件、公園清掃中の盗難事故、飛び石による車両窓破損各1件、職員労災事故が2件発生した。

I. 利用者状況 (2023年3月末現在)

1. 事業種別 定員

・事業種別 就労継続支援B型 ・定員 60名

2. 各月利用者数 (単位：人・%)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
前月末	53	53	53	53	53	53
当月初	53	53	53	53	53	53
当月末	53	53	53	53	53	53
新入所者	0	0	0	0	0	0
退所者	0	0	0	0	0	0
利用率	87.3	86.3	89.3	83.1	82.6	83.2
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前月末	53	53	53	53	53	53
当月初	53	53	53	53	53	53
当月末	53	53	53	53	53	53
新入所者	0	0	0	0	0	0
退所者	0	0	0	0	0	0
利用率	86.7	85.3	83.3	83.8	88.0	87.5

年間平均利用率 85.5%

入所者：0名

退所者：0名

3. 男女別 男性38名 女15名

4. 居住地別 葛飾区53名

5. 年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計	平均年齢
男	0	7	13	9	7	2	38名	40.5歳
女	0	3	7	4	0	1	15名	38.0歳
計	0	10	20	13	7	3	53名	39.8歳
%	0.0	18.9	37.7	24.5	13.2	5.7	100.0	

6. 障害支援区分別

区分	人数
6	0
5	2
4	12
3	15
2	3
1	0
未判定	21
合計	53

7. 通所方法 自主通所 53名

II. 職員状況

1. 職員配置

- 1) 管理者 1名 (常勤1名)
- 2) サービス管理責任者 1名 (常勤1名)
- 3) 生活支援員 1名 (常勤1名)
- 4) 職業指導員 12名 (常勤9名・非常勤3名)
- 5) 目標工賃達成指導員 1名 (常勤1名)
- 6) 就労支援員 1名 (常勤兼務1名)
- 7) 栄養士 1名 (常勤1名)
- 8) 調理員 2名 (非常勤2名)
- 9) 事務員 1名 (常勤1名)

2022年3月末現在

2. 職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
正職員	10	10	10	10	10	11
非常勤	8	8	8	8	8	9
計	18	18	18	18	18	20
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
正職員	11	11	11	12	12	12
非常勤	9	8	8	8	8	8
計	20	19	19	20	20	20

各月当初人員

2022年度 グループホーム事業報告

2022年度、エタンセールにおいて12月5日病気で亡くなられた方1名が退居した、3月に1名の入居者があった。3月末現在、グループホーム入居者は総勢33名である。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、グループホームにおいて、入居者12名、職員14名が新型コロナウイルスに罹患、また、クラスターが発生し、入居者、職員も不安な日々を送ることがあった。その中で、行事も縮小はしてきたが、少しでも楽しい生活が送れるよう、誕生会や食事会等、ホーム内で開催し、また、後期はバーベキューやバスハイクも取り組むことができた。

コロナ感染症対策も各ホームでしっかり取り組んでいけるよう、責任者会議で、日々の取り組みを共有し、対策強化につなげた。

昨年からの情報共有と職員の実務の効率化を図るため、ほのぼの(支援記録システム)の導入を図ってきた。各ホームからオンラインで職員全員が入力作業に取り組んでいる、又他のホームの様子も知ることが出来る様になった。

ホーム全体の入居者が高齢化し、機能低下、認知障害、精神的な落ち込み、意欲低下等がある。2022年度は、自室での転倒、怪我が3件あった。一人ひとりのケースについて、数名の入居者については医療、介護、後見人等、専門分野の方々の意見を日々とりいれながら、支援を充実してきた。健康のために、地域の理学療法士の方の協力や訪問の機能訓練マッサージを取り入れるなど、機能低下を防ぐ取り組みも引き続き行った。

事故については、利用者の服薬忘れが7件、転倒事故が5件、車両事故が2件、労災事故が3件あった。

I 利用者状況

2023年3月31日現在

1 定員と現員

(単位：人)

ケアホーム	ユニット	開設年月日	定員	現員		
				男性	女性	合計
かがやけ寮	ブリエ	H11. 12. 1	5	4	1	5
	リベルテ	H24. 4. 1	4	3	1	4
	ラヴァンス	H29. 6. 1	4	2	2	4
エタンセール	エタンセール	H14. 3. 1	7	4	3	7
	アルクアンシエル	H18. 5. 1	6	4	2	6
	フューチャー	R3. 5. 1	7	4	3	7
合計			33	21	12	33

2 入居者の状況 (年齢の状況)

ユニット	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
ブリエ		1	1	1	2	5
リベルテ			1	3		4
ラヴァンス		1		3		4
エタンセール			2	4	1	7
アルクアンシエル		1	4	1		6
フューチャー		1	2	4		7
合計		4	10	16	3	33

3 入居者の状況 (障害者支援区分の状況)

ユニット	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
ブリエ			2	2	1		5
リベルテ				2	2		4
ラヴァンス			2	2			4
エタンセール				1	1	5	7
アルクアンシエル				1	3	2	6
フューチャー					3	4	7
合計			4	8	10	11	33

II 職員状況

職員配置（2023年4月1日現在）

エタンセール

(1) 管理者	1名（常勤兼務）
(2) サービス管理責任者	1名（常勤）
(3) 世話人	11名（常勤）
(4) 生活支援員	21名（常勤6、非常勤15）
(5) 事務	3名（常勤1、非常勤2）

かがやけ寮

(1) 管理者	1名（常勤兼務）
(2) サービス管理責任者	1名（常勤）
(3) 世話人	4名（常勤4）
(4) 生活支援員	16名（非常勤13）

2022年度 相談支援センターかがやけ事業報告

2022年度は、かがやけ福祉会が運営している事業所の利用者及び地域において障害福祉サービス事業を利用している方へのサービス等利用計画の策定を行ってきた。サービス等利用計画は、214件（内法人外121件）、モニタリング報告は、336件（内法人外200件）を進めてきた。

定期の利用計画の更新やモニタリング報告の他、家族の病気や介護力低下などによって、本人に新たなニーズが生じた場合には、必要に応じて計画案の内容変更（家事援助、短期入所、GH入居等）を行ってきた。

就労移行支援利用から就職し、6ヶ月後の定着支援サービスの利用となった方が8名いた。

特徴的だったのが、就労移行支援の利用が途中で解除となった利用者が5名おり、主な理由としては、長期の在宅生活で、継続しての通所や円滑にコミュニケーションを図ることが難しいことで、これらの事が課題となっている方への支援の困難さが考えられる。

相談支援専門員としての専門知識の習得や支援技術向上のため、今年度も積

極的に研修に参加をしてきた。

葛飾区主催・民間事業所運営（身体・知的相談支援部会・分科会—サロン）の研修への参加および、企画委員として1名、相談支援専門員研修の運営に携わってきた。

◎事業種別

指定特定相談支援事業

I 利用者状況

1. 各月サービス等利用計画・モニタリング策定数（ ）法人外在宅者等・内数

	サービス等利 用計画	モニタリング	小計 (件)		サービス等利 用計画	モニタリング	小計 (件)
4月	14(8)	35(22)	49(30)	10月	15(7)	32(20)	47(27)
5月	22(15)	22(14)	44(29)	11月	15(10)	29(19)	44(29)
6月	21(8)	21(13)	42(21)	12月	17(10)	32(15)	49(25)
7月	16(11)	27(20)	43(31)	1月	13(9)	26(16)	39(25)
8月	12(5)	30(15)	42(20)	2月	24(14)	22(10)	46(24)
9月	22(9)	30(20)	52(29)	3月	23(15)	30(16)	53(31)
小計	107(56)	165(104)	272(160)	小計	107(65)	171(96)	278(161)
				合計	214(121)	336(200)	550(321)

II 職員状況

1. 職員配置

- 1) 管理者 1名（相談支援専門員兼務）
- 2) 相談支援専門員 1名